

ペットと幸せに暮らすということ

飼い主にとって大事なペットは、家族と同じです。出来ることなら「いつでも」、「どこでも」一緒に過ごしたいと思うのは当然ですよね。

時折、かわいいペットと離れ離れにならなければいけない時もあります。旅行や仕事なら、ペットホテルに預けるなど飼い主の自己責任でどうとでもなります。

しかしながら、災害時、「緊急避難場所でペットと一緒に過ごせるのか?」、高齢者にとって、「いつまで自分が責任もって世話ができるのか?」といったことは、飼い主の自己責任だけでは解決不可能です。

解決の糸口は、社会全体の協力体制であり、それを制度化するためのきちんとしたルール作りと行政の積極的な関わりです。

それを促すためにも、議会及び市議会議員がしっかり議論し行政を動かしていかなければいけないと考えています。

かつべ

ひろふみ

懇意にしている獣医さんとお話しさせていただき、いろいろ大切なアドバイスを頂きました。私自身、犬と暮らしているので、しっかり行政に対して働きかけなくてはいけない事柄だと痛感しております。

【考えるべきこと1】

避難所におけるペットの同行、同伴可能場所の提示とルール作り。

平常時からペットを「同行」（避難所の決められた箇所に置く形）、「同伴」（飼い主と一緒に過ごせる形）の避難所を決めておき周知しておくことで、ペット所有者とそうでない人のトラブルを避けることができます。

【考えるべきこと2】

高齢者が安心してペットと暮らせるための方策作り

ペットを飼ってもいい年齢ってありますか?いくつになってもペットとの生活を楽しむことは生きがいにもなります。散歩に出るきっかけになったり、ペットの散歩仲間との交流を持てたり、何かの世話をすることで自分自身の存在意義を確認できたり、人間が生きていくためにも役に立ってくれています。高齢者こそペットとの交流を持つべきです。そのためにも飼い主が高齢化しペットの面倒が見れなくなった時の受け皿を考えていかなければならないと思います。



【かつべひろふみ 略歴】1967年3月生まれ（56歳）
我孫子市立根戸小学校 久寺家中学校
専修大学松戸高校 明治大学法学部 卒業
米国カリフォルニア州モンテレー国際大学（MIIS）国際
政策学修士課程修了（MAIPS）
我孫子市議会議員（1995-2007）28歳で初当選。

現在

NPO法人実武道会館 我孫子地区支部長（実践空手道3段）
介護施設職員 （一社）我孫子青年会議所OB



苦しい時も一緒に過ごしたハム君は（16才）今でも大事な家族です。